

# 地域包括ケアシステムにおけるプロボノ活動の現状と課題

高井逸史<sup>1)</sup>、片岡勇樹<sup>2)</sup>、森本誠司<sup>3)</sup>、山城雄馬<sup>2)</sup>、小山恵理子<sup>2)</sup>  
松原賢典<sup>2)</sup>、松村加奈子<sup>3)</sup>、山口武彦<sup>4)</sup>、川西孝幸<sup>4)</sup>、高宮昭仁<sup>5)</sup>  
藤井大輔<sup>5)</sup>、井口泰仁<sup>6)</sup>、陶器俊博<sup>7)</sup>

1)大阪経済大学人間科学部 2)シャローム株式会社 3)かなえるリハビリ訪問看護ステーション  
4)寺田万寿病院リハビリテーション科 5)地域ケアステーション八千代・訪問看護ステーション  
6)泉北藤井病院リハビリテーション科 7)清恵会三宝病院介護事業部

**キーワード：**地域包括ケアシステム・プロボノ活動・互助活動

## はじめに

「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」の実施に向け、各市町村では住民同士の支え合いの体制づくりを進め、住民自らが担い手となり地域の互助の力を高める取組みが大きな課題となっている。また一般介護予防事業の「地域リハビリテーション活動支援事業」では、リハビリ専門職は地域の介護予防の取組みを強化するため、地域ケア会議への参画をはじめ、住民運営の通いの場の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携し、総合的に支援促進することが求められている<sup>1)</sup>。このようにリハビリ専門職は地域に出向き健康増進を通じた地域づくりに参画することが、地域包括ケアの構築には不可欠であると考え。そこで、医療職や介護職らの専門的な知識や技術を提供するプロボノ（ボランティア）を通じ、住民の健康づくりやまちづくりに寄与する任意団体「ひと・まちプロジェクト」を設立した。

## ひと・まちプロジェクトとは

「ひと・まちプロジェクト」は堺市に勤務する（していた）療法士が平成28年4月に立ち上げた。活動内容は地域に出向き地域在住高齢者を対象に、フレイル予防やロコモティブシンドローム予防といった介護予防や健康相談などをプロボノとして実施している。主に堺市南区を中心に展開しており、平成28年11月現在、療法士が15名、管理栄養士が2名、医師、薬剤師、看護師、主任介護支援専門員が各1名で合計21名が所属する。

## 目的

本研究ではリハビリ専門職のプロボノを周知するため、これまでの活動の経緯や現状を報告し、さらにプロボノ活動の内容を精査・分析し活動の問題や課題を明確にすることを目的とした。

## 方法

対象は「ひと・まちプロジェクト」のメンバーのうち、介護予防講座を経験したことがある療法士8名とした。質問項目は①動機、②依頼先の特性、③活動内容、④活動場所、⑤参加人数、⑥問題・課題を、プロボノの未経験者には⑦プロボノに対する不安を、インタビューなど実施し回答を求めた。なお⑥問題・課題についてはKJ法を用い分析を行った。

## 説明と同意

得られた結果は研究の目的以外には使用しないことなどを説明し、理解を得たうえで協力を求めた。また、インタビュー等は自由意志であり、回答しなくとも不利益にならないことを説明し、同意を得て実施した。

## 結果

①動機については「地域貢献したいから」8人、「地域に興味があるから」6人が多かった（複数回答）。②依頼先の特性では住民が5件、NPO法人が4件、行政（地域包括支援センター含む）3件であった。③活動内容では介護予防に資する運動指導が6件と最も多く（図1）、健康相談2件（図2）、ノルディック・ウォーク講座2件（図3）など。④活動場所では地域会館（公民館）が8件と最も多く、スーパーの空きスペース2件、NPO法人2件など。⑤参加人数については10名から50名。⑥問題・課題について図4に示す。図4の破線で囲んだ療法士サイドでは、勤務時間内の活動となるため職場の理解が必要であるなど「職場運営・理解」。若い療法士への教育が必要となるが見学・研修機会が乏しいなど「育成・教育」。介護予防体操の実施において療法士によるばらつきがあり、内容を公開し統一化や検証するなど「運動メニュー」。一方実線で囲んだ住民・地域サイドにおいては、住民リーダーの育成や住民同士のつながりづくりといった「住民へのはたらきかけ」。参加者のその日の体調把握や、運動中の急変時

の対応など「リスク管理」、以上5つに分類した。



図1 地域会館での介護予防講座



図2 ショッピングモールでの健康チェック・相談



図3 公園・緑道でのノルディック・ウォーク講座

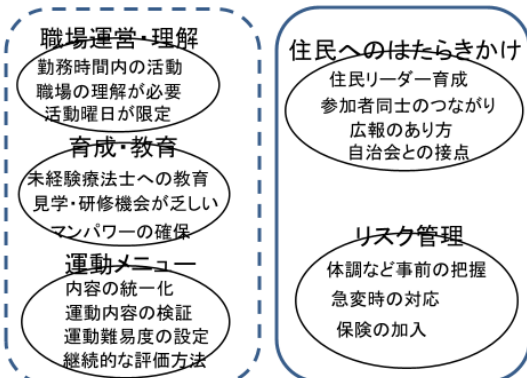


図4 プロボノの問題・課題

## 考察

「ひと・まちプロジェクト」とは、療法士をはじめ、看護師、薬剤師など医療・介護の専門職がそれぞれ自分たちの専門分野の職能を活かし、地域住民の健康づくりやまちづくりに寄与することを目的としている。継続したプロボノ活動の経験者は8名と多くはないが、他の療法士についてもプロボノ参画への関心度は高く、実際に活動現場に出向き見学も実施していた。今後、地域包括支援センターと協働し自治会や住民らから要請を受け、介護予防体操講座などの依頼があることが予想される。そのため、未経験療法士への見学や研修などマンパワーをいかに獲得し、継続した活動が行えるか、課題のひとつである。また、療法士による運動メニューにばらつきがあり、効果検証を含め今後研鑽が求められる。さらに、参加者の健康状態を事前に把握することは難しく、緊急時の対応や事後責任など、リスク管理に関しメンバー間で意見交換を図る必要がある。

「ひと・まちプロジェクト」では、毎月メンバー同士で情報交換を行う定例会を開催し、ひとりでも多くの療法士にプロボノを知ってもらい参画することを期待している。また情報交換会を通じ、自治会とのコンタクトの取り方や、地域住民と協働しインフォーマル活動を支援・推進することができるか、など知ることができる。今回の調査結果に基づき、定例会を通じメンバー間で課題を共有し、課題解決に向け取り組んでいかなければならない。

太田<sup>2)</sup>は地域包括ケアシステムを構築する上で、住民ボランティアによるインフォーマルな活動が先行することが必要であり、それをリードするには専門職の関わりが不可欠であり、療法士によるプロボノ活動の必要性を強調している。

今後ひとりでも多くの療法士らが地域に出向き、専門性を活かしたプロボノ活動を通じ、地域づくりに参画することを期待する。

## 謝辞

本研究は平成27-29年度文科省科研費基盤研究C「住民主体の互助活動を推進する地域リハビリネットワーク構築に関する研究(課題番号15K00741)」によるものである。

## 文献

- 1) 厚生労働省老健局振興課:介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方。  
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/000074692.pdf> (2016年6月8日参照)
- 2) 太田仁史:住民のボランティア活動とリハビリテーション専門職の  
プロボノ活動の協働-地域リハ活動の枠組みの中で介護予防活動を  
深化できるか- J Rehabil Med52:243-245,2015